

1

## \* 最終レポート課題について

### 1. 課題内容

・東南アジアの国または地域を一つ選び、テーマを絞って考察しなさい。

#### <レポート執筆のポイント>

★概要ではなく、特定のテーマを定めること

(慣習、衣食住、教育、宗教、民族、言語、社会問題、政治、経済、自然環境、資源、歴史、王国、遺跡、植民地支配、国際関係、日本との関係など)  
 ※テーマは具体的であるほど論じやすい

★テーマに関する具体的な「問い」をたて、「根拠」にもとづいて「考察」を加えること

※構成の例として、「序論」(問い・問題提起)→「本論」(説明・検討)→「結論」(明らかになったこと)

※レポートは、調べたことをただ書き並べるだけの「調べ学習」や、個人の主観や感性のみにとづく「感想文」とは異なる

★すぐにテーマが絞り込めない場合は、授業の中で挙げた参考文献やニュース記事、雑誌などに目を通してみるとよい

★「比較」の視点を入れると論じやすい(日本やその他の国・地域との比較、過去と現在の比較など)

2

## 2. 書式

- ・ 2,000～3,000字程度(wordの標準設定の場合、2頁程度)

※タイトル(テーマ)・学部・学籍番号・氏名を冒頭に明記すること

## 3. 注意点

- ・ 文末に参考文献(書籍・論文・雑誌など)・参考URLを記載すること

※ウェブ上の文書を用いる場合は、文書の著者・公表機関・文書名に加え、参考URL・閲覧日を記すこと

・ 書籍やウェブサイトにかかれた他人の文章をコピー＆ペーストすること、一部であっても出典を明らかにせずに記載することは盗用・剽窃行為に当たり、認められない。

レポート・論文執筆の  
ルールを守ること！

## 4. 提出期間および提出方法

**【提出期間】 2020年7月30日(木)～8月6日(木) 12:00 ※締め切り厳守**

**【提出方法】** L-Camのレポート機能を使って提出

3

3

## 【注意事項】

第1回目の授業でお知らせしたように(第1回配布資料スライド4頁目参照)、

・ 本講義は、毎回の授業後に提出するリアクションペーパー(30%)と、最終レポート(70%)により総合的に評価します。

**・ 正当な理由なく4回以上欠席(課題未提出)の場合は、評価対象外となります(3回までは未提出でも評価対象)。その場合、最終レポートを提出しても採点されません。**

成績評価を希望する人は、各自レポート提出履歴を見て、自分が条件を満たしているかどうか確認してください。

**(特別に配慮すべき事情がある場合には、8月6日(木)12:00までにメールで申し出ること)**

神内：jin.yokoyoko0214@aitech.ac.jp

※同様の内容は、7月9日のメール「最終レポートの課題について」を参照のこと<sup>4</sup>

4

### \* 日本軍による英領マラヤ占領政策

・ 1941年12月8日に進軍開始、1942年2月15日にイギリス軍降伏

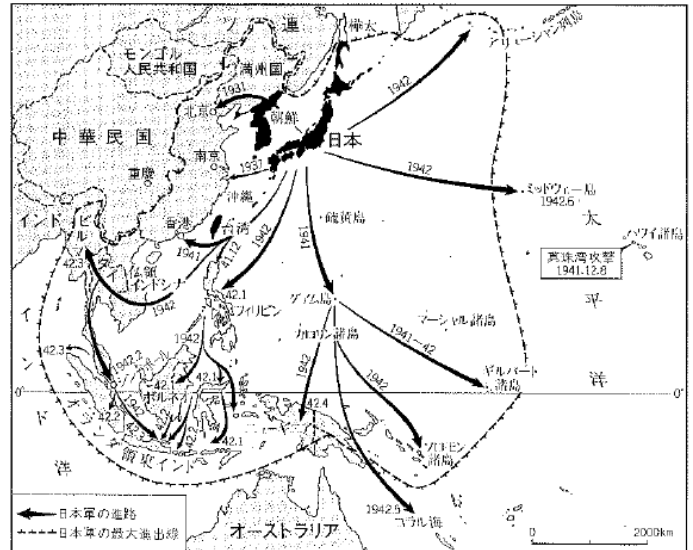
→シンガポールは「昭南島」へと改称

### ※日本軍の英領マラヤ占領のねらい

...マラヤに駐留する連合軍とシンガポールの海軍基地の獲得、スマトラの石油の獲得など

(⇔オランダ領東インド=豊富な天然資源や農産物の補給地としての位置づけ)

・ インドネシアとともに、マラヤ、シンガポールは永久確保(=植民地化)する方針



「日本軍の東南アジア進出」和田久徳ほか著(1977)  
『東南アジア現代史Ⅰ 総説・インドネシア』山川出版社, p.40

5

### \* 日本軍による英領マラヤ占領政策の内容

・ 実質的な分割統治

...マレー系・インド系住民に対しては懐柔政策(協力要請)

⇔中国系住民(華人)に対しては徹底弾圧※

### ※1942年2月：抗日華僑の「粛清」と献金強制

...シンガポール在住中国人を連行し殺害(5千～6千人？4万人？)

...5,000万ドルの強制献金(実際に集まったのは2,800万ドル)

→華人によるさらに激しい反日闘争

・ 民族ごとの団体を作り、競争心を煽る

...「マレー人奉公会」(マレー系)、「独立連盟」(インド系)、「海外中国人連合」(中国系)



林博史「シンガポール華僑粛清」『自然人間社会』(40), 2006, p.18

図3 戦後の遺骨発見地点

### \* 日本軍による教育政策・言語政策その他

- ・ 英語学校を廃止→すべて日本語学校へ（6歳～14歳の7学年編成）
- ・ 中国人学校・インド人学校は閉鎖、のちインド人学校は約7割が再開
- ・ 英語の使用禁止、教育言語は日本語とマレー語(ただし、インド人学校では日本語とタミル語)
- ・ 教育内容：日本語・実業(唱歌・遊戯・手工・図画・園芸)・体育など
- ・ 宮城遥拝

- ・ 軍票の乱発によるインフレ、植民地経済システムの破綻  
→食糧・物資不足、栄養失調、病死者の増加

資料3 100ドル価格の変化

Feb. 1942	100
Dec. 1942	100
Jan. 1943	105
July 1943	254
Jan. 1944	455
July 1944	1,010
Jan. 1945	2,000
1 Aug. 1945	10,300
12 Aug. 1945	95,000
13 Aug. 1945	no value

KRATOSKA, Paul 「日本占領下のマラヤ」,2014,p.123

7

7

### \* マレーシア、シンガポールの誕生

1945年8月：日本敗戦にともない、イギリス支配下に復帰※

※20世紀以降イギリス植民地支配に対する抵抗運動が起こるも、民族ごとに展開されまともらず。日本軍の分割統治により、さらに亀裂が深まる(⇔インドネシアの場合)

1948年：英領マラヤ連邦形成

1957年：マラヤ連邦独立、1959年：シンガポール自治州誕生

1963年：マレーシア成立(シンガポール、サバ、サラワクを加える)

1965年：マレーシアからシンガポールが分離独立

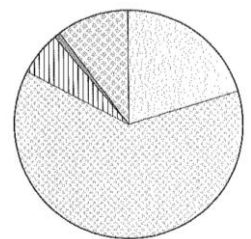
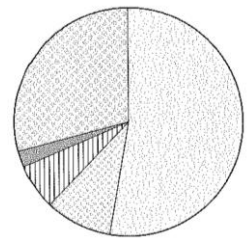
### ※シンガポールの分離独立の背景

- ・ 植民地期・日本占領期を通して民族意識・民族間の対抗意識が強まる

→マレーシア側：シンガポールを含めた場合に中国人の人口比率が高まり、中国人に主導権を握られることを恐れる

→シンガポール側：マレー人優先のマレーシア国家建設に反発、自由港としての独自の地位の維持を希望

■ 華人 ■ マレー系 ■ インド人  
■ その他 ■ 外国人など

マレーシア  
(総人口：約3239万人)シンガポール  
(総人口：約564万人)

民族別推計人口(2018),坪井祐司『ラッフルズ：海の東南アジア世界と「近代」』山川出版社,2019,p.99

8



## マレーシア概要 (Malaysia)



- 面積：約33万平方キロメートル(日本の約0.9倍)
- 人口：約3,200万人(2017年)
- 首都：クアラルンプール
- 民族：マレー系(約69%),中国系(約23%),インド系(約7%),その他  
※マレー系には、中国系およびインド系を除く他民族を含む
- 宗教：イスラム教(国教)(61%),仏教(20%),儒教・道教(1.0%),ヒンドゥー教(6.0%),キリスト教(9.0%),その他
- 言語：マレー語(国語), 中国語, タミール語, 英語
- 政体：連邦制の立憲君主制(議会制民主主義)
- 君主：アブドゥラ第16代国王(パハン州スルタン)  
(2019年1月就任,任期5年,統治者会議で互選,)
- 首相：ムヒディン・ヤシン(2020年3月就任)

外務省HP (2020年3月23日最終閲覧)

9

9

### \* 「複合社会」マレーシア国家の課題

#### ※イギリス植民地政策の遺産としての「複合社会」

- ・「一つの政治単位のなかで隣り合わせに生活していながら、お互いに混じりあうことのない二つないしそれ以上の要素または社会秩序を内包するような社会」
- ・「敵意もないが関心もない」「かれらは混じり合うが、結びつかない」

#### ※独立新生国家の最大課題としての「国民統合」と貧困からの脱却

- ・背景に、多様な民族構成や地理的問題(半島マレーシアと東マレーシア)
- 社会的・経済的格差の是正、民族間対立の緩和の必要(とくにマレー人と華人)

10

10

## \* 植民地政策の遺産：「複合社会」としてのマレーシア

表1 マレーシアの民族別人口比 (1980)

	半島部	サバ	サラワク	合 計
マレー系	55.25%	—	—	—
マレー系及び他の ブミプットゥラ	—	82.90%	69.30%	59.0%
中国系	33.90%	16.20%	29.40%	32.1%
インド系	10.20%	—	—	8.2%
その他	0.65%	0.90%	1.30%	0.7%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.0%
人口(千人)	11,426	1,011	1,308	13,745

出典：Information Malaysia 1988 Yearbook. Kuala Lumpur : Berita Publishing, 1988. 半島部マレーシアとサバ、サラワクの民族分類が異なること、ブミプットゥラはマレーシアの「土着の民」を意味すること、サバ、サラワクの「その他」にはインド系が含まれることに注意。この表の人口総数と、実際のセンサス報告書の人口総数では、前者の方が約65万人多いが、その理由は不明である。

表3 半島マレーシアの民族別宗教人口の百分比 (1980)

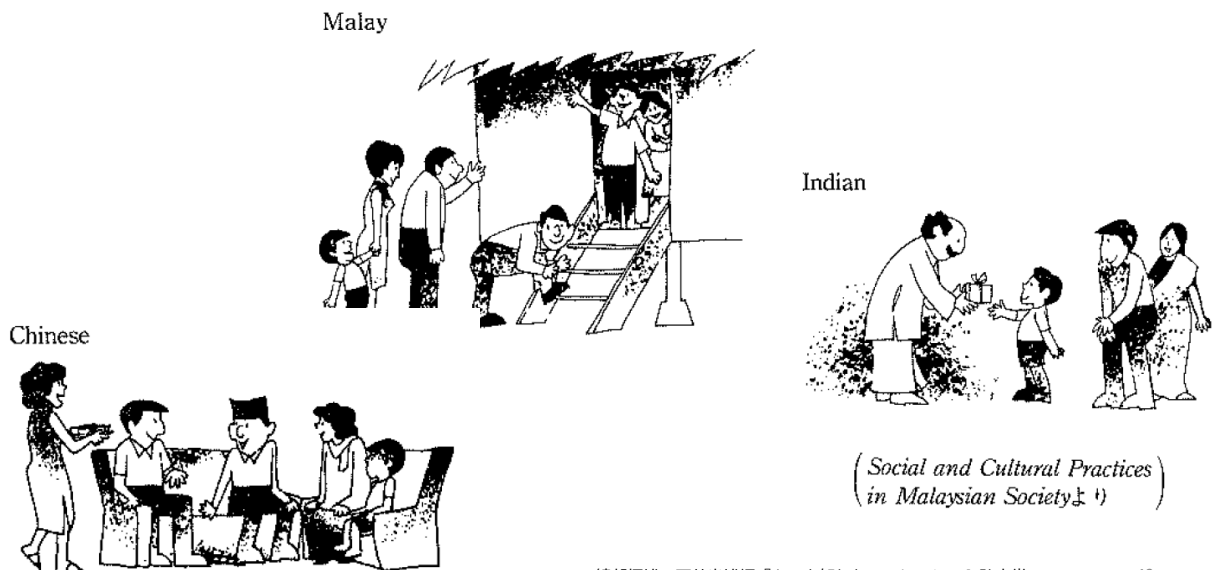
宗 教	マレー系	中国系	インド系	その他	計
イスラム教	98.9	0.21	5.38	6.25	56.08
キリスト教	0.08	3.31	7.55	39.09	2.14
ヒンズー教	0.01	0.11	83.67	1.25	8.41
仏教	0.01	55.80	0.62	47.69	18.97
儒教・道教・その他の 伝統的な中国の宗教	0.01	38.54	0.13	0.48	12.88
部族・民族 宗教	0.73	0.23	0.07	0.04	0.49
その他	0.03	0.23	2.51	2.98	0.36
無宗教	0.22	1.57	0.07	2.22	0.67
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
人口 計	6,102,194	3,630,542	1,087,561	66,416	10,886,713

出典：1980 Population and Housing Census of Malaysia, General Report of the Population Census, vol.2, Department of Statistics Malaysia, Kuala Lumpur, p.230.

11

11

## \* 出版物に描かれた「民族間の相互訪問とエチケット」



綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいマレーシア』弘文堂, 1994, p.72

12

12

## \* 植民地政策の遺産：民族間の雇用・経済格差

表1 連合マレー州における民族別労働人口（産業別）単位：人（構成比％） 表2 半島マレーシアの産業別民族別雇用比率（1967年）（％）

	錫鉱山（％）	天然ゴム農園（％）	稲作（％）
マレー人	813（1）	4,821（3）	89,122（97）
中国人	70,704（92）	32,916（23）	1,038（1）
インド人	4,168（7）	104,767（74）	1,892（2）
合計	76,685（100）	142,501（100）	92,052（100）

（出所）Lim（1977）p.248；Purcell（1967）p.239.

産業	マレー人	華人	インド人
農業	74.4	22.3	0.9
加工農業	52.3	27.4	19.6
鉱業	21.4	67.2	10.3
製造業	28.3	64.0	6.9
電力・ガス	22.9	32.4	10.3
建設	26.2	62.5	9.9
商業	24.4	65.9	9.1
サービス	47.0	35.9	15.0
金融	36.5	49.6	12.7
運輸・通信	37.7	40.1	20.9
合計	49.8	36.4	12.6

（出所）Lim（1971）p60.

小野沢純「ブミプトラ政策—多民族国家マレーシアの開発ジレンマ」『マレーシア研究』第1号,2012,p.4

13

13

## \* 民族間の対立

### ※1969年5月13日の「人種暴動」

- ・総選挙の結果を引き金としたマレー人と華人との間の民族衝突
- ・銃撃や放火など暴動により、数日間で死者196人負傷者439人(政府発表)の犠牲者を出す
- ・背景に、社会・経済格差に対する貧しいマレー人の不満、多数派のマレー人優遇政策に対する華人の不満など
- ・治安回復に出動した軍・警察は民族的に偏向(=大半がマレー人)しており、殺害・掠奪・大量逮捕の対象は、圧倒的に華人であった

(死者の73.0%, 負傷者の61.5%, 逮捕者の56.1%が華人)

→これを機に、マレーシアは新たな国民統合・経済政策へと転換、権威主義的な政治体制を強化

→1971年～：マレー人を優遇する「ブミプトラ政策」へ

14

14

### \* 「ブミプトラ政策」(1971年～)

- ・「ブミプトラ」＝「土地の子」＝マレー人の意味
- ・社会的・経済的弱者であるマレー人の優遇政策(＝積極的差別是正措置)
- ・教育・就職・住居・銀行融資・会社経営など、あらゆる面でマレー人を優遇することにより、民族間の経済格差を是正し、民族別に職業区分される状況を改善することを目指す
- ・当初は20年間の期限付き(～1990年)だったが、形を変えながら現在まで続く

### ※「マレー人」の定義

- ・「イスラームを信仰し、日常的にマレー語を話し、マレーの慣習に従う人」  
(憲法第160条)
- ・ただし、非ムスリムの先住民オラン・アスリやサバ・サラワクの土着民も含む

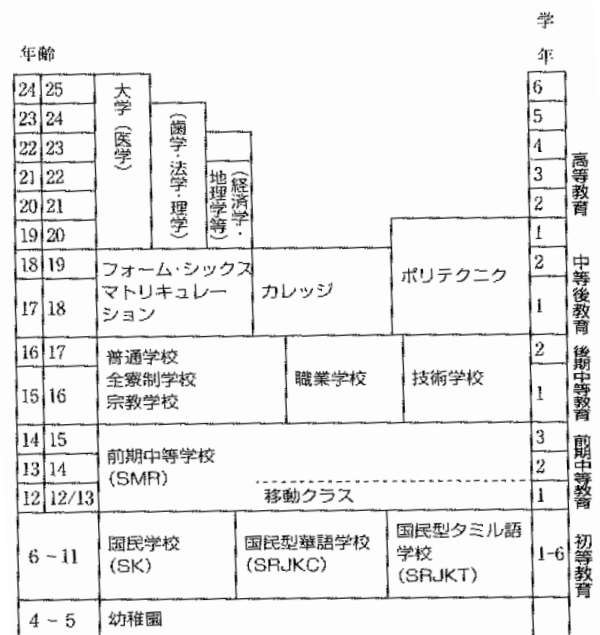
15

15

### \* 「ブミプトラ政策」にもとづく学校教育の特徴

- ・6・3・2・2(大学予備教育課程)・3制
  - ・公立校は中等教育まで無償
  - ・小学校は民族別の3系統
- …「国民学校」(マレーシア語)と「国民型学校」(華語・タミル語)

〈マレーシアの学校系統図〉



二宮皓編著『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版,2013,p.165

16



・小学校ではマレー語(国語)が必修、中学校以上はすべてマレー語で教授

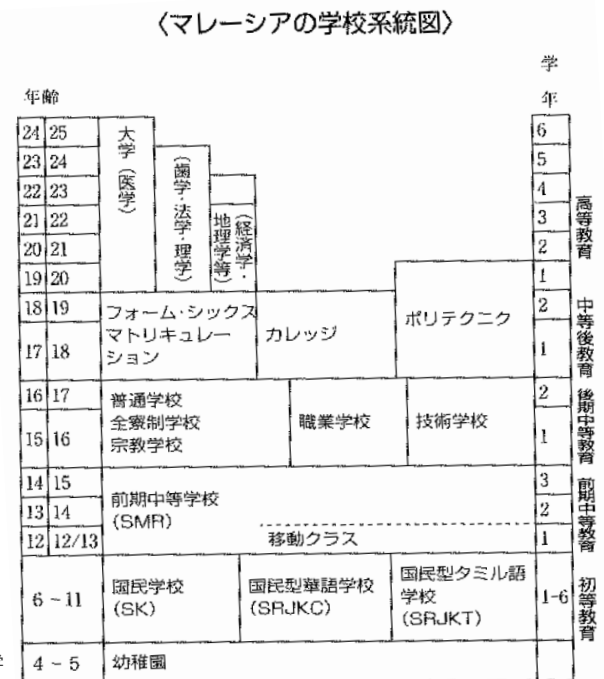
...マレーシア語の成績の良くない華人・タミル人は、移行学級で1年間マレー語を勉強

・エリート養成のための全寮制中学校への入学はブミプトラの子弟のみ

・国立大学にはブミプトラ優遇の入学枠あり  
...ブミプトラ 55%、非ブミプトラ 45%(華人 35+ インド人10)

## =マレー人優位の教育政策

二宮皓編著『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版,2013,p.165



17

## \*「ブミプトラ政策」の「実績」

表5 専門職：ブミプトラと華人の占める比率の変化 (%)

	2000 年	2007 年
	ブミプトラ：華人	ブミプトラ：華人
会計士	17.1 < 76.2	23.5 < 71.4
建築士	42.1 < 56.2	46.2 < 52.1
弁護士	32.3 < 40.1	39.0 > 36.5
医者	36.8 > 31.0	43.8 > 28.2
歯医者	35.2 < 42.4	46.5 > 34.5
獣医	41.9 > 27.7	43.3 > 34.1
エンジニア	41.6 < 51.1	46.2 > 46.0
サーベイヤ	45.1 < 49.6	50.5 > 44.7

< C：製造業における民族別就業人口比率 > (%)

	1970 年	1990 年	2000 年	2003 年
ブミプトラ	21.2	46.4	53.9	54.5
華人	71.7	37.9	33.1	32.6
インド人	7.0	11.0	12.5	12.4
総計	100.0	100.0	100.0	100.0

小野沢純 [2012:16,,30]

18

18

## \* 「ブミプトラ政策」の「実績」

表3 ブミプトラ政策の実績（1970～2000年代）

< A : 民族別世帯月額収入 >

単位：リンギット、%（ブミプトラ＝100）

	1970 年	1990 年	2000 年	2007 年
ブミプトラ	172 (100)	931 (100)	1,984 (100)	3,156 (100)
華人	394 (224)	1,592 (171)	3,456 (174)	4,853 (154)
インド人	304 (177)	1,201 (129)	2,702 (136)	3,794 (120)

< B : 株式資本の民族別所有比率 >

(%)

	1970 年	1990 年	2000 年	2006 年
ブミプトラ	1.9	19.3	18.9	19.4
華人	22.5	45.5	38.9	42.4
インド人	1.0	1.0	1.5	1.1
外国資本	60.7	25.4	31.3	30.1
証券信託会社	13.9	8.5	8.5	6.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
合計（億 RM）	（52 億）	（1,084 億）	（3,324 億）	（6,218 億）

小野沢純 [2012:15-16]

19

19

## ※ブミプトラ政策の成果と課題

### ・成果として

...格差の縮小、民族性と結びついた社会構造を一定程度解消

(マレー人の専門職比率・製造業就業人口比率・世帯収入・株式資本の所有比率などの増加、マレー人を中心とした中間層の形成)

### ・課題として

...人口構成比に見合った雇用は未達成

...他の民族からの不満、優秀な人材の海外流出(とくに国内で不利な立場に置かれた中華系・インド系住民)

...甘やかされたマレー人の依存心増大、経済の非効率化、国力低下

20

20



## シンガポール共和国概要 (Republic of Singapore)

- 面積：約720平方キロメートル(東京23区と同程度)
- 人口：約564万人(うちシンガポール人・永住者399万人)(2019年1月)
- 民族：中華系(約74%),マレー系(約14%),インド系(約9%),その他(約3%) (2019年1月)
- 宗教：仏教, イスラム教, キリシト教, 道教, ヒンズー教
- 言語: 国語としてマレー語, 公用語として英語, 中国語(華語), マレー語, タミール語
- 政体：立憲共和制(英連邦加盟)
- 元首：ハリマ・ヤコブ大統領(2017年9月就任)
- 首相：リー・シェンロン(人民行動党:PAP)



外務省HP (2020年3月23日最終閲覧)

21

### \* 4つの公用語の併用



写真③ 工事現場の危険注意喚起の看板  
(4つの公用語で表記されている)



写真④ 非常用ボタンを説明する看板  
(4つの公用語で表記されるため看板が大きい)

矢頭典枝「シンガポールの言語状況と言語教育についてー現地調査から」2014,p.61

22

22

### \* 独立後シンガポールの国家課題

- ・ 限られた物的資源と人的資源の有効利用
- ・ 多民族の平和共存(華人、マレー人、インド人、その他)
- ・ マレー人が多数派の近隣の大国 (インドネシア・マレーシア)への配慮

※例) 国語 = マレー語(象徴的な役割)

→工業化推進、「シンガポール人」意識の形成 (⇔華人としての意識、大陸中国への帰属意識)

23

23

### \* シンガポール社会の特徴

- ・ 初代首相リー・クワンユーの与党・人民行動党(PAP)による長期政権、2004年息子リー・シェンロンが第三代首相に就任
- ・ 経済発展の代償として、国民は強権的・管理主義的政府を支持  
(⇔反対派の排除、効率的な発展のための外国人の権利の制限)
- ・ 徹底した能力主義、管理・競争社会(「独裁国家」「管理主義国家」「明るい北朝鮮」とも)



矢頭典枝「シンガポールの言語状況と言語教育について —現地調査から」2014,p.60

24

24

## \* シンガポールの学校教育の特徴

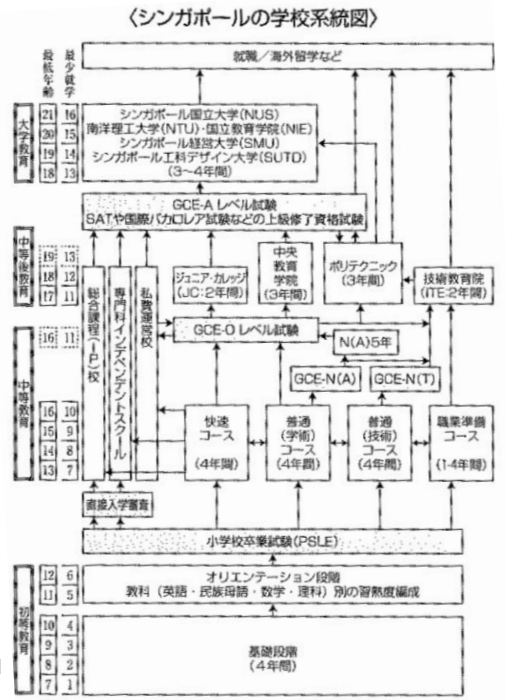
### ・二言語教育

...英語(中立的、実利的)と母語

...小学校では、公民・道徳と母語(語学)の授業はそれぞれの母語で(華語⇨マンダリン/北京語、マレー語、タミル語)、その他の教科は英語で教授

...中学校以上では、母語(語学)の授業以外はすべて英語で教授

二宮皓編著『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』  
学事出版,2013,p.145



25

### ・徹底した実力主義・多人種主義

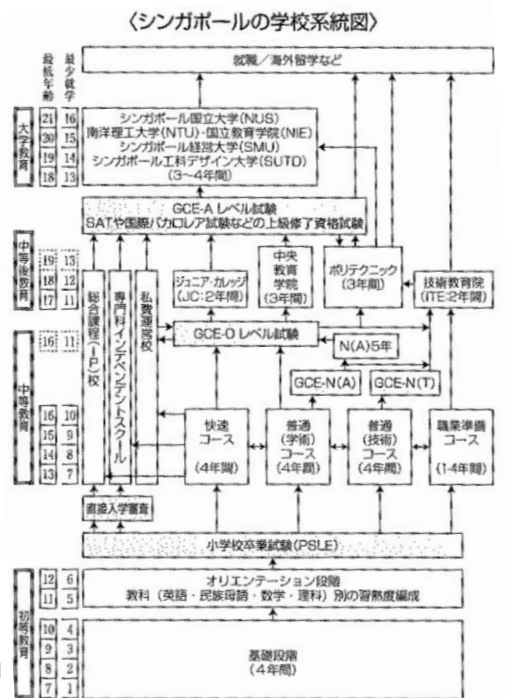
...小学5年生から習熟度別編成

→小学校卒業試験の結果で、その後の進路がほぼ決まる

※中高一貫のIP校(成績上位10%)、普通校快速コース(中位50%)、普通・学術コース(下位25%)、普通・技術コース(下位15%)、職業準備コース(低学力の数%)

**= 民族・文化・言語・宗教によらない、平等な教育機会**

二宮皓編著『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』  
学事出版,2013,p.145



26

## \* シンガポールの教育成果

※近年の国際学力調査における高い学力

### ・ TIMSS(国際数学・理科教育動向調査)

...国際教育到達度評価学会（IEA）による国際比較調査。小学4年生と中学2年生を対象に、算数/数学および理科の教育到達度を測る。1995年から4年ごとに実施。量的な知識の獲得を測る傾向

### ・ PISA(学習到達度調査)

...経済協力開発機構(OECD)による国際比較調査。15歳を対象に、読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーを測る。2000年から3年ごとに実施。知識の活用能力を測る傾向

27

27

## 【国際学力調査：TIMSS 1995-2015】

### 国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2015)における成績

小学校 算数		小学校 理科		中学校 数学		中学校 理科	
国/地域(49)	平均得点	国/地域(47)	平均得点	国/地域(39)	平均得点	国/地域(39)	平均得点
シンガポール	618 点	シンガポール	590 点	シンガポール	621 点	シンガポール	597 点
香港	615	韓国	589	韓国	606	日本	571
韓国	608	日本	569	台湾	599	台湾	569
台湾	597	ロシア	567	香港	594	韓国	556
日本	593	香港	557	日本	586	スロベニア	551
北アイルランド	570	台湾	555	ロシア	538	香港	546
ロシア	564	フィンランド	554	カザフスタン	528	ロシア	544
ノルウェー	549	カザフスタン	550	カナダ	527	イングランド	537
アイルランド	547	ポーランド	547	アイルランド	523	カザフスタン	533
イングランド	546	アメリカ	546	アメリカ	518	アイルランド	530
ベルギー	546	スロベニア	543	イングランド	518	アメリカ	530
カザフスタン	544	ハンガリー	542	スロベニア	516	ハンガリー	527
ポルトガル	541	スウェーデン	540	ハンガリー	514	カナダ	526
アメリカ	539	ノルウェー	538	ノルウェー	512	スウェーデン	522
デンマーク	539	イングランド	536	リトアニア	511	リトアニア	519
リトアニア	535	ブルガリア	536	イスラエル	511	ニュージーランド	513
フィンランド	535	チェコ	534	オーストラリア	505	オーストラリア	512
ポーランド	535	クロアチア	533	スウェーデン	501	ノルウェー	509
オランダ	530	アイルランド	529	イタリア	494	イスラエル	507
ハンガリー	529	ドイツ	528	マルタ	494	イタリア	499
チェコ	528	リトアニア	528	ニュージーランド	493	トルコ	493
ブルガリア	524	デンマーク	527	マレーシア	465	マルタ	481
キプロス	523	カナダ	525	アラブ首長国連邦	465	アラブ首長国連邦	477
ドイツ	522	セルビア	525	トルコ	458	マレーシア	471
スロベニア	520	オーストラリア	524	バレーン	454	バレーン	466
スウェーデン	519	スロバキア	520	ジョージア	453	カタール	457
セルビア	518	北アイルランド	520	レバノン	442	イラン	456
オーストラリア	517	スペイン	518	カタール	437	タイ	456
カナダ	511	オランダ	517	イラン	436	オマーン	455
イタリア	507	イタリア	516	タイ	431	チリ	454
マレーシア	505	ベネチア	519	中国	497	ニュージーランド	449

28

28



## 【国際学力調査：PISA 2000-2018】

## 【参考】2018年調査の国際比較(3分野の結果一覧)

	読解力	平均 得点	数学的リテラシー	平均 得点	科学的リテラシー	平均 得点
1	北京・上海・江蘇・浙江	555	北京・上海・江蘇・浙江	591	北京・上海・江蘇・浙江	590
2	シンガポール	549	シンガポール	569	シンガポール	551
3	マカオ	525	マカオ	558	マカオ	544
4	香港	524	香港	551	エストニア	530
5	エストニア	523	台湾	531	<b>日本</b>	<b>529</b>
6	カナダ	520	<b>日本</b>	<b>527</b>	フィンランド	522
7	フィンランド	520	韓国	526	韓国	519
8	アイルランド	518	エストニア	523	カナダ	518
9	韓国	514	オランダ	519	香港	517
10	ポーランド	512	ポーランド	516	台湾	516
11	スウェーデン	506	スイス	515	ポーランド	511
12	ニュージーランド	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
13	アメリカ	505	デンマーク	509	スロベニア	507
14	イギリス	504	スロベニア	509	イギリス	505
15	<b>日本</b>	<b>504</b>	ベルギー	508	オランダ	503
16	オーストラリア	503	フィンランド	507	ドイツ	503
17	台湾	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
18	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
19	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
20	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
21	スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
22	ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
23	フランス	493	オーストラリア	499	スイス	495
24	ポルトガル	492	ラトビア	496	フランス	493
25	チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
26	オランダ	485	アイスランド	495	ポルトガル	492
27	オーストラリア	484	ニュージーランド	494	ノルウェー	490

29

## 【国際学力調査：PISA 2000-2018】

## 【参考】PISA調査 読解力国際比較(全79か国・地域)

	2000年★	得点	2003年	得点	2006年	得点	2009年★	得点	2012年	得点	2015年	得点	2018年★	得点
1	フィンランド	546	フィンランド	543	韓国	556	上海	556	上海	570	シンガポール	535	北京・上海・江蘇・浙江	555
2	カナダ	534	韓国	534	フィンランド	547	韓国	539	香港	545	香港	527	シンガポール	549
3	ニュージーランド	529	カナダ	528	香港	536	フィンランド	536	シンガポール	542	カナダ	527	マカオ	525
4	オーストラリア	528	オーストラリア	525	カナダ	527	香港	533	<b>日本</b>	<b>538</b>	フィンランド	526	香港	524
5	アイルランド	527	リヒテンシュタイン	525	ニュージーランド	521	シンガポール	526	韓国	536	アイルランド	521	エストニア	523
6	韓国	525	ニュージーランド	522	アイルランド	517	カナダ	524	フィンランド	524	エストニア	519	カナダ	520
7	イギリス	523	アイルランド	515	オーストラリア	513	ニュージーランド	521	アイルランド	523	韓国	517	フィンランド	520
8	<b>日本</b>	<b>522</b>	スウェーデン	514	リヒテンシュタイン	510	<b>日本</b>	<b>520</b>	台湾	523	<b>日本</b>	<b>518</b>	アイルランド	518
9	スウェーデン	516	オランダ	513	ポーランド	508	オーストラリア	515	カナダ	523	ノルウェー	513	韓国	514
10	オーストラリア	507	香港	510	スウェーデン	507	オランダ	508	ポーランド	518	ニュージーランド	509	ポーランド	512
11	ベルギー	507	ベルギー	507	オランダ	507	ベルギー	506	エストニア	516	ドイツ	509	スウェーデン	506
12	アイスランド	507	ノルウェー	500	ベルギー	501	ノルウェー	503	リヒテンシュタイン	516	マカオ	509	ニュージーランド	506
13	ノルウェー	505	スイス	499	エストニア	501	エストニア	501	ニュージーランド	512	ポーランド	506	アメリカ	505
14	フランス	505	<b>日本</b>	<b>498</b>	スイス	499	スイス	501	オーストラリア	512	スロベニア	505	イギリス	504
15	アメリカ	504	マカオ	498	<b>日本</b>	<b>498</b>	ポーランド	500	オランダ	511	オランダ	503	<b>日本</b>	<b>504</b>
16	デンマーク	497	ポーランド	497	台湾	496	アイスランド	500	ベルギー	509	オーストラリア	503	オーストラリア	503
17	スイス	494	フランス	496	イギリス	495	アメリカ	500	スイス	509	スウェーデン	500	台湾	503
18	スペイン	493	アメリカ	495	ドイツ	495	リヒテンシュタイン	499	マカオ	509	デンマーク	500	デンマーク	501
19	チェコ	492	デンマーク	492	デンマーク	494	スウェーデン	497	ベトナム	508	フランス	499	ノルウェー	499
20	イタリア	487	アイスランド	492	スロベニア	494	ドイツ	497	ドイツ	508	ベルギー	499	ドイツ	498
21	ドイツ	484	ドイツ	491	マカオ	492	アイルランド	496	フランス	505	ポルトガル	498	スロベニア	495
22	リヒテンシュタイン	483	オーストラリア	491	オーストラリア	490	フランス	496	ノルウェー	504	イギリス	498	ベルギー	493
23	ハンガリー	480	ラトビア	491	フランス	488	台湾	495	イギリス	499	台湾	497	フランス	493
24	ポーランド	479	チェコ	489	アイスランド	484	デンマーク	495	アメリカ	498	アメリカ	497	ポルトガル	492
25	ギリシャ	474	ハンガリー	482	ノルウェー	484	イギリス	494	デンマーク	496	スペイン	496	チェコ	490

30

## まとめ；近現代マレー世界の社会と教育(インドネシア・マレーシア・シンガポール)

・植民地支配による「境界」の確定、日本軍による占領統治

→多民族を包摂した「国民」「国民国家」の創出

・独立後、「国民統合」(=「国民」としてまとまり続ける努力)という大きな課題  
(民族間の経済格差の是正、国家としての発展)

※共通の課題を持ちながらも、それぞれの民族構成や植民地支配下・軍事占領下の社会・教育政策のあり方といった社会的・文化的・歴史的状況により、異なる道を歩む

※「国民」の創出や国家・社会の形成において教育が果たす役割

※世界の他の旧植民地の国家との比較可能性(共通点と相違点)

31

31

## 参考文献

- 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいマレーシア』弘文堂,1994
- 綾部恒雄・永積昭編『もっと知りたいシンガポール』弘文堂,1982
- KRATOSKA, Paul「日本占領下のマラヤ」立教大学アジア地域研究所主催 公開シンポジウム「日本占領下の南洋」(2014年11月16日)
- 二宮皓編著『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版,2013
- 矢頭典枝「シンガポールの言語状況と言語教育について —現地調査から」科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究プロジェクト 『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 —成果報告書 (2014) —』

32

32